

REPORT

一般財団法人 自治体国際化協会(CLAIR) ロンドン事務所 所長補佐

濱本 京平 (徳島県派遣)

紅茶とウィスキー

英国のエシカル・サステイナブルな「お土産選び」

年度末の帰国を目前に控え、業務でも日常生活でも忙しい日々を送っていますが、家族やお世話になった人たちへのお土産を何にしようかと思いを巡らせるのは、この多忙な日々の中でも楽しいひと時であるように感じます。

今回は英国からのレポートの締めくくりとして、英国土産の中でも人気の品目「紅茶」と「ウィスキー」について、エシカル・サステイナブルな取り組みをご紹介します。

【英国のエシカルな紅茶事情】

説明するまでもなく、紅茶は英国文化になくてはならない要素で、英国では一日あたりティーカップ百万杯分の紅茶が飲まれていると言われています(※1)。フォートナムアンドメイソンなどの百貨店には様々な銘柄の茶葉が販売されており、アフタヌーンティーを提供するティーハウスはロンドンだけでなく英国各地に存在しています。(アフタヌーンという名前とは裏腹に、多くのティーハウスは午前中からでも営業しています。午前中は混んでいないお店も多いので、おすすめです)

ダーズリンやセイロンなどの茶葉の銘柄にもあるように、紅茶の産地といえばインドやスリランカが有名ですが、実は現在英国に輸入されているお茶の半分以上がケニア産です。インド、スリランカ、ケニアはいずれもかつて英国の植民地だった国で、英国におけるお茶の消費を支えるため、大規模なプランテーション（大規模農園）が導入されました。植民地時代、お茶の栽培に携わる現地の労働者は、低賃金・長時間の非常に厳しい労働環境に置かれており、その状況は現代においても変わっていないという批判もあります。アンケート調査では、英国の消費者の60%以上が「エシカル認証を受けたお茶を消費することは重要である」と回答しており(※2)、環境や生産者の労働環境に配慮したエシカルなお茶の需要は高いと言えます。

エシカルなお茶に関する企業の取り組みとしては、例えば「エシカル・ティー・パートナーシップ (ETP)」が挙げられます。ETPはロンドンに本部を置くエシカルな紅茶生産の推進を目的とした団体で、トワイニングなどの大手のティーパッカー（お茶の販売業者）も



▲アフタヌーンティー。ヨークのティーハウスにて。

(※1) UK Tea & Infusions Association - Frequently Asked Questions About Tea

(※2) 10 charts explaining UK attitudes to hot beverages | 10 Charts | The Grocer

英国のエシカル・サステイナブルな「お土産選び」

加盟しています。この団体はインド、ケニアなどのお茶の生産地で、生産者の生活環境を改善するためのチャリティー活動を行っており、例えばケニアでは、お茶の生産に従事する地域住民の住宅の改善事業や、医療機関の設置などを進めています。ETPに加盟している企業の商品にはロゴマークが表示されているので、お店で選んで買うことができます。

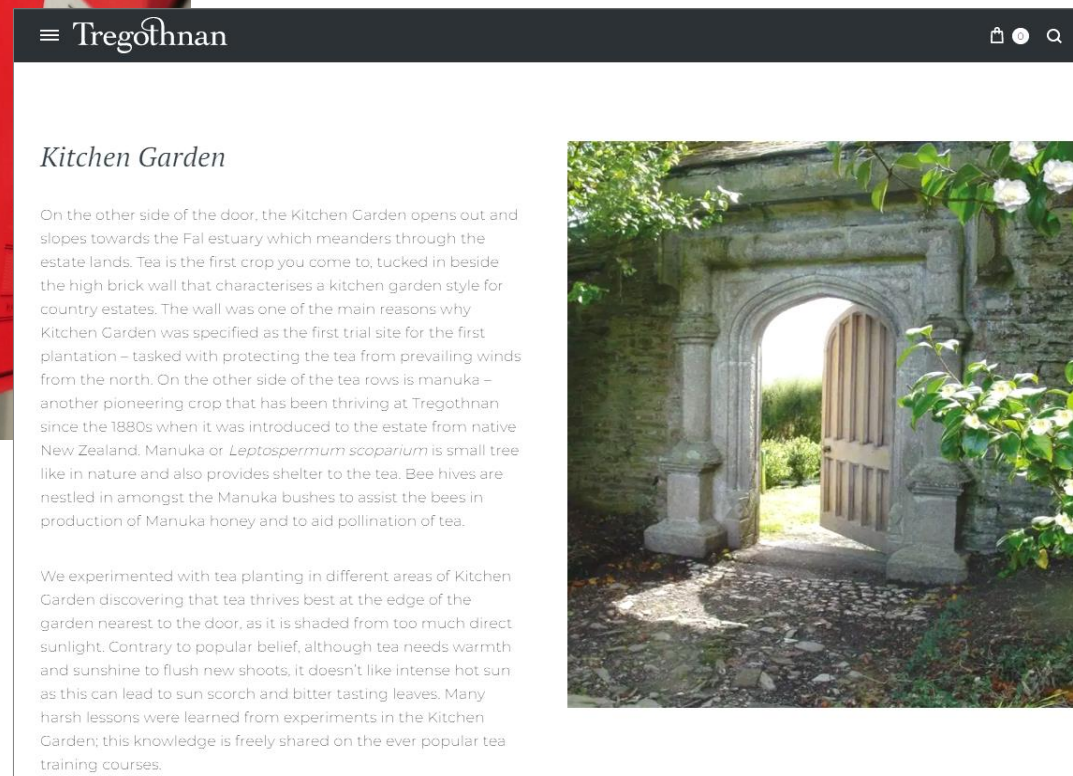
また、ETP以外にも注目したい取り組みとして、イングランド南西部・コーンウォールにおいて、英国で初となるお茶の現地生産が行われています。ここで生産されているお茶「トレゴスナン・ティー」は、この地域にある貴族の邸宅「トレゴスナン・カントリー・ハウス」から名前が取られています。もともと美しいツバキ園があることで知られていたトレゴスナンでは、その栽培技術を活かし、1999年からお茶の栽培が始まりました（お茶はツバキ科の植物です）。現在では、インターネット通販でトレゴスナン・ティーを購入することができるほか、農場を見学するツアーなども開催されており、地産地消のユニークな試みと言えるでしょう。英国に来ることがあれば、このようなエシカルなお茶を手にとってみるのもいいかもしれません。

スコッチウィスキーに関する業界団体であるスコッチウィスキー協会



◀ETP認証を受けた紅茶。スーパーマーケット「Tesco」にて。

▼トレゴスナン・ティーのホームページに掲載された茶園の紹介記事(※3)



では、2009年に最初のサステイナビリティ戦略を打ち立て、気候変動への対応と環境への負荷の低減に取り組んできました。これにより、温室効果ガスの排出が34%、水の利用が22%の削減された(※4)ほか、蒸留所から排出される廃棄物のうち、リサイクルされずに埋め立てられる廃棄物の割合を1%まで低減させるなどの成果を挙げており、スコットランド環境省などからもその取り組みが高く評価されています。協会はこの戦略を2021年1月に刷新し、さらに野心的な目標を定めました。新たな戦略では、2040年までに温室効果ガスの実質的な排出をゼロにすること（英国政府の掲げている目標より10年、スコットランド政府の目標より5年の前倒し）、スコッチ

ウィスキーの製造に不可欠な泥炭地の保全と復元に積極的な役割を果たすこと、水の消費削減について2025年までにすべての生産者が一定の基準を達成することなどの目標が掲げられています。



▲年代物のスコッチウィスキーのボトル。エディンバラにて

(※3) [Explore our English Tea Plantations » Tregothnan](#)

(※4) [Scotch Whisky industry launches new sustainability strategy \(scotch-whisky.org.uk\)](#)

濱本 京平 (徳島県派遣)

紅茶とウィスキー

英国のエシカル・サステイナブルな「お土産選び」

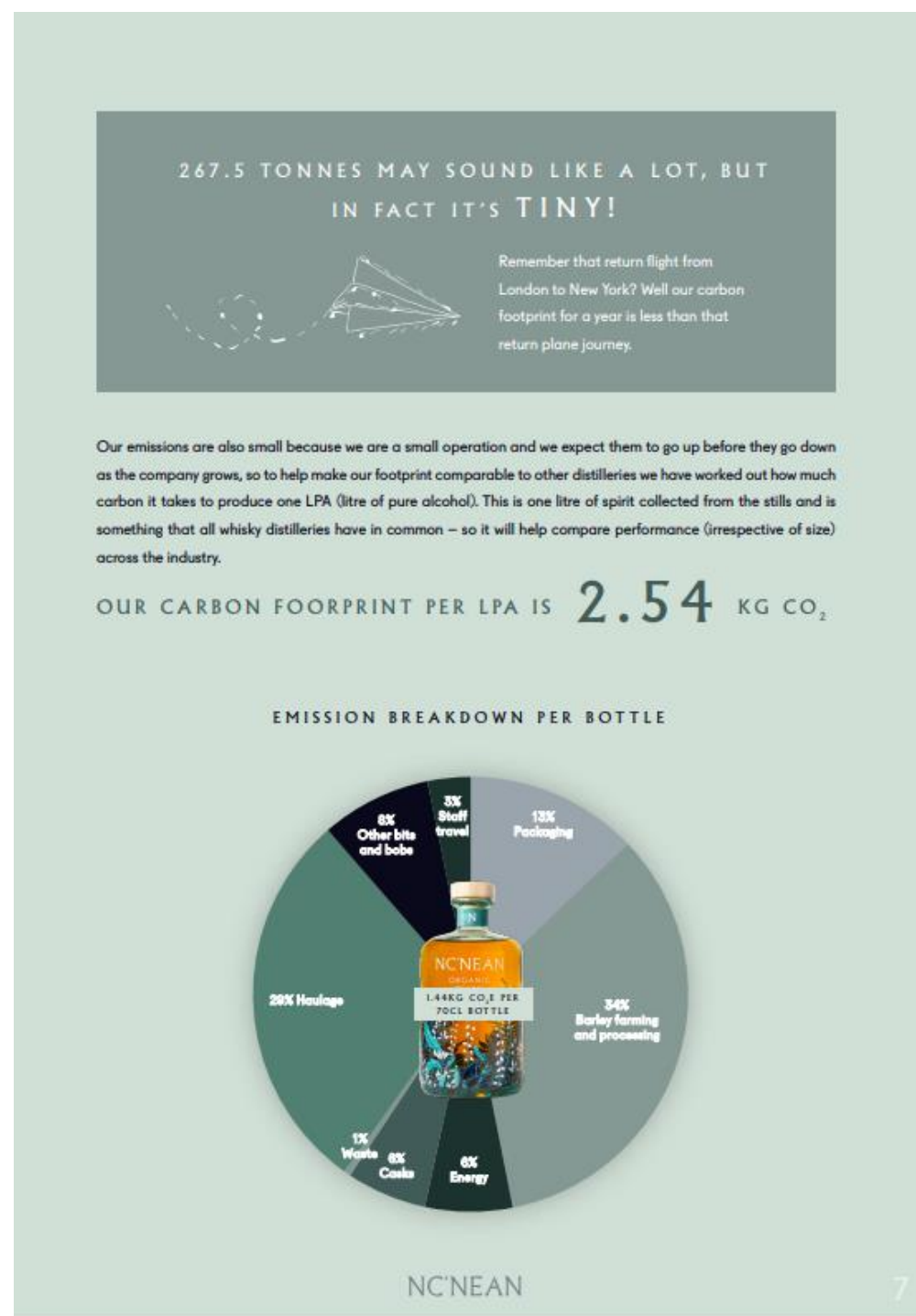
このようにサステナビリティへの取り組みを進めているスコッチウィスキー業界ですが、その中でも最も先進的な取り組みを進めている蒸留所として、スコットランド西部のハイランド地域に位置する「ノックニーアン蒸留所」を紹介します。ノックニーアンは2017年創業の非常に新しい蒸留所でありながら、英国で初めて温室効果ガス排出を実質ゼロにしたことで一躍有名になりました。ノックニーアンでは、地元で環境に配慮した方法で製造された木材チップを使用する「バイオマスボイラー」や「廃熱リサイクル設備」などを活用しているほか、蒸留所から出る廃棄物の99.97%はリサイクル・再利用・たい肥化し、蒸気の冷却などで使用される冷却水の80%をリサイクルしています。また、高級路線のウィスキーとしては珍しく、ボトルの材質を環境への負荷が低いリサイクルガラスに置き換えるなど、その取り組みは徹底しています。

ノックニーアンのような徹底した取り組みを行っている蒸留所はまだスコットランドにおいてもごく少数ですが、現在では「シーバス・リーガル」で有名なシーバスブラザーズ社など、大手蒸留所もサステナビリティに関する取り組みを進め、技術やノウハウを蓄積しているところです。スコットランドのみならず、アメリカや日本などの他のウィスキー産地でもこのようなサステイナブルな取り組みが広がっていくことを期待したいところです。

筆者は1年半の間、英国での「消費者」としての生活を通じて、「値段が安く、品質が良いこと」だけではない、多様な価値観を英国の消費者が持っていることを実感しました。また企業が消費者の多様な価値観に応えることで、新たなビジネスチャンスを創出している現状や、消費者が自分たちの消費する商品・サービスについて情報を集め、権利を正しく行使していくことで、責任ある活動を行

うよう企業に働きかけようとする姿勢も見えてとることができました。

日本においても、企業と消費者の間でのこのような関係をより強固にするとともに、責任ある企業活動に対するインセンティブ（動機づけ・報酬）を生み出すことで、責任ある生産と消費をより拡大し、消費者の多様なニーズに応えられる市場を育てていくことができるのではないのでしょうか。



▲ノックニーアン蒸留所が発行している環境レポート。製造や流通の工程で排出される二酸化炭素の量を示すカーボンフットプリントが記載されている。
[210713 Nc nean Sustainability Report 2020.pdf \(shopify.com\)](https://shopify.com/210713-Nc-nean-Sustainability-Report-2020.pdf)